

*【中山・伊草小教職員用】

「小学校間の児童の交流」「小中連携・交流」に関するアンケート

— 「小学校間の児童の交流」に関するアンケート —

(はじめにお読みください)

今年10月から、平成30年4月の学校統合に向けて、統合対象校（「三保谷小学校と出丸小学校」ならびに「ハッ保小学校と小見野小学校」）同士が、お互いに連携を図ることで、子供たちが慣れ親しめるよう交流を始めました。

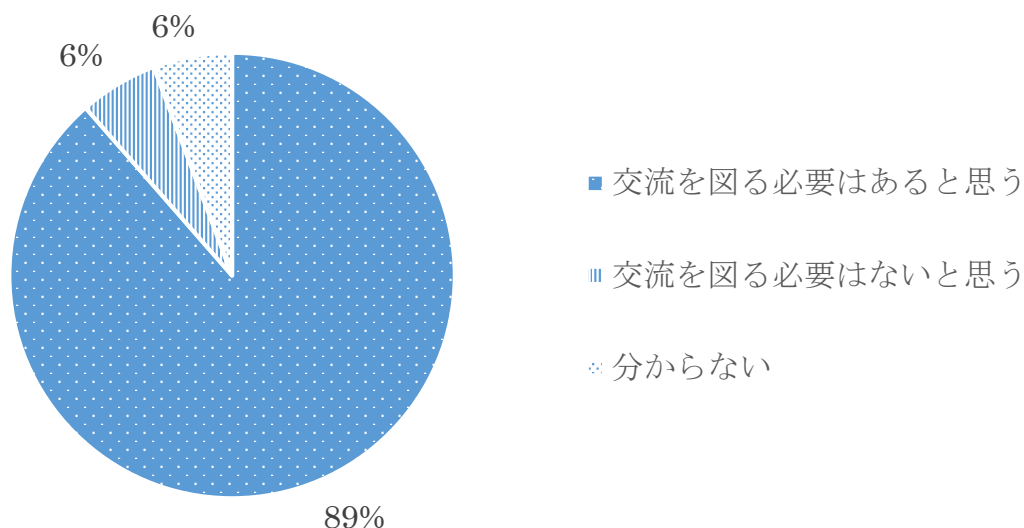
交流は、全学年においてあらゆる授業や校外学習を中心に行い、給食も食べることを内容としています。

アンケート回答者数 35人

問1 小学校間において、児童同士の交流を図ることについて、どう思いますか？
該当する番号に○をつけてください。(1つのみ)

- ① 交流を図る必要はあると思う → 問2、3、4、5へ
- ② 交流を図る必要はないと思う → 問6へ
- ③ 分からない → 問7へ

問1回答者数 35人

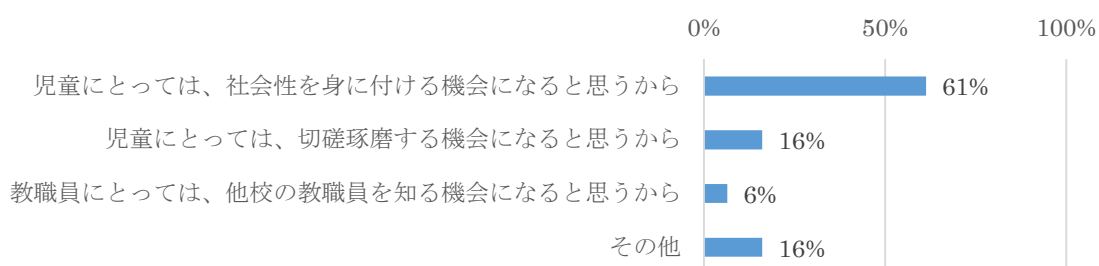


問2 問1で①を選択した先生のみお答えください。

小学校間において、児童同士の交流を図る必要はあると思う理由は何ですか？
該当する番号に○をつけてください。(1つのみ)

- ① 児童にとっては、社会性を身に付ける機会になると思うから
- ② 児童にとっては、切磋琢磨する機会になると思うから
- ③ 教職員にとっては、他校の教職員を知る機会になると思うから
- ④ 教職員にとっては、他校の授業方法等を知る機会になると思うから
- ⑤ その他 ()

問2回答者数 31人

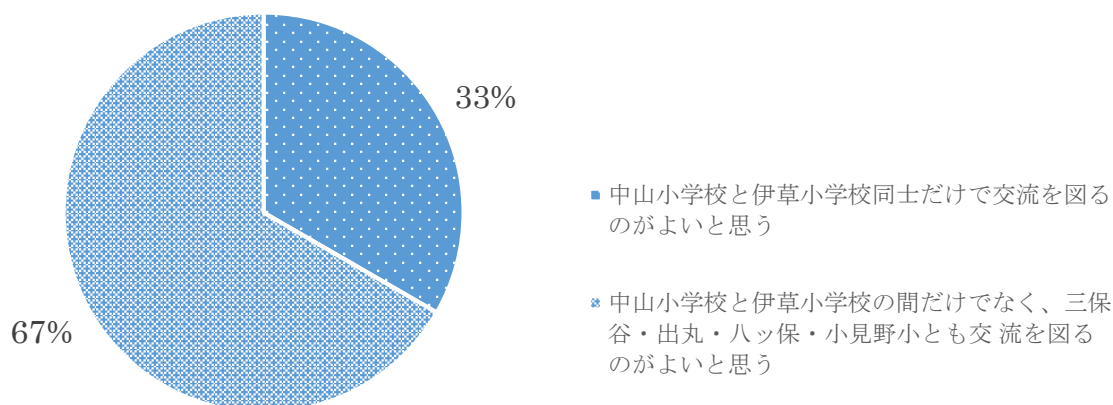


問3 問1で①を選択した先生のみお答えください。

あなたが所属する学校の児童は何処の小学校と交流を図ることがよいと思いますか？
該当する番号に○をつけてください。(いずれか1つ)

- ① 中山小学校と伊草小学校同士だけで交流を図るのがよいと思う
- ② 中山小学校と伊草小学校の間だけでなく、三保谷・出丸・ハッ保・小見野小とも交流を図るのがよいと思う

問3回答者数 31人



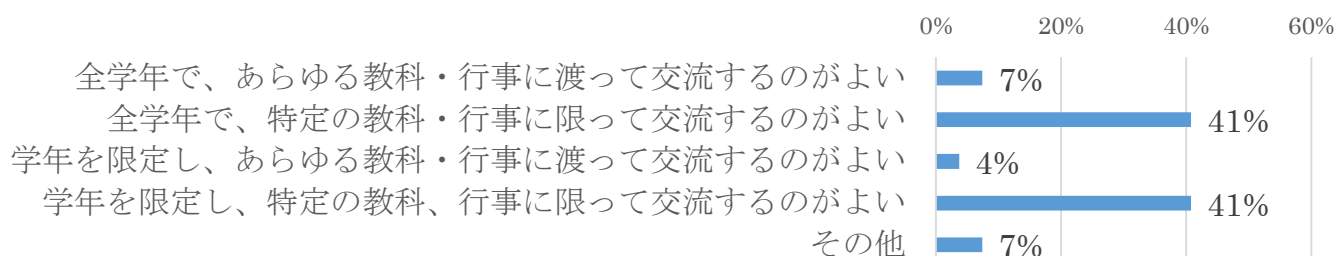
問4 問1で①を選択した先生のみお答えください。

どのように児童同士の交流をおこなうのがよいと考えますか？

該当する番号に○をつけてください。(1つのみ)

- ① 全学年で、あらゆる教科・行事に渡って交流するのがよい
- ② 全学年で、特定の教科・行事に限って交流するのがよい
- ③ 学年を限定し、あらゆる教科・行事に渡って交流するのがよい → 問5
- ④ 学年を限定し、特定の教科、行事に限って交流するのがよい → 問5
- ⑤ その他 ()

問4回答者数 27人



問5 問4で③、④を選択した先生のみお答えください。

特に何年生の児童を対象に交流するのが良いと考えますか？

該当する番号に○を付けてください。(いくつでも)

- ① 1年生 4%
- ② 2年生 4%
- ③ 3年生 8%
- ④ 4年生 13%
- ⑤ 5年生 25%
- ⑥ 6年生 46%

回答者数 12人 (有効回答数 24)

問6 問1で②を選択した先生のみお答えください。

小学校間で児童同士の交流を図る必要はないと考える理由は何ですか？

該当する番号に○をつけてください。(1つのみ)

- ① 小学校間において児童同士の交流を図る意義が見出せないから
- ② 少年団や学童クラブにおいて、すでに児童の交流がおこなわれているから
- ③ 児童同士の交流は、児童にかえって悪い影響があると思うから
- ④ 児童同士の交流は、教職員の負担が大きいと考えるから
- ⑤ その他 ()

回答者数 2人 (②選択1人、⑤選択1人)

問7 問1で③を選択した先生のみお答えください。

小学校間で交流を図ることについて、分からないと思うのは何故ですか？
自分の気持ちに近い番号に○をつけてください。(1つのみ)

- ① 児童同士の交流を図ることは良いと思うが、やり方が分からないから
- ② 児童同士の交流を図ることは良いと思うが、効果が検証できていないから
- ③ 児童同士の交流を図ることは良いと思うが、負担が大きいと思うから
- ④ その他 ()

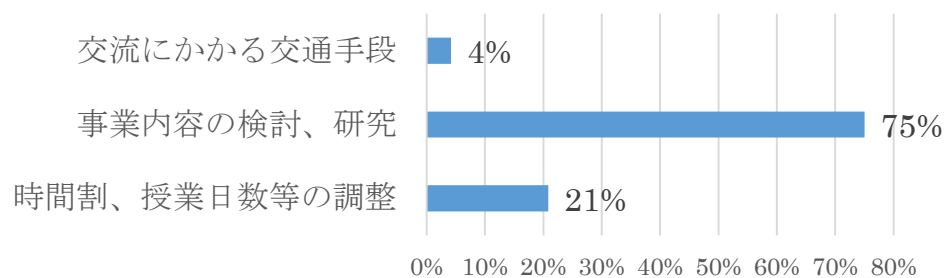
回答者数 2 人 (②選択 2 人)

問 10 問 8 で②を選択した先生のみお答えください。

小中連携・交流に際し、事前にどのような検討が必要と考えられますか？
該当する番号に○を付けてください。(1 つのみ)

- ① 時間割、授業日数等の調整
- ② 事業内容の検討、研究
- ③ 交流にかかる交通手段
- ④ その他 ()

問 10 回答者数 24 人



問 11 問 8 で③を選択した先生のみお答えください。

小中連携・交流を実施するのは困難と考える理由は何ですか？
該当する番号に○を付けてください。(1 つのみ)

- ① 中学校（小学校）の教員免許がないから難しい
- ② 小・中学校では、教職員の意識、文化が異なるから難しい
- ③ 小・中学校が別々の場所にあるから難しい
- ④ その他 ()

問 11 回答者数 2 人 (②選択 1 人、④選択 1 人)

問 12 問 8 で④を選択した先生のみお答えください。

小中連携・交流の実施は必要ないとする理由は何ですか？
該当する番号に○を付けてください。(1 つのみ)

- ① 川島町では中一ギャップの心配はないと思うから必要ない
- ② 教職員の負担が増えると考えられるから必要ない
- ③ 児童・生徒に悪い影響があると考えられるから必要ない
- ④ その他 ()

問 12 回答者数 1 人 (②選択)

問 13 問 8 で⑤を選択した先生のみお答えください。

小中連携・交流の実施が必要あるか否か分からないと思う理由は何ですか？
自分の気持ちに近い番号に○を付けてください。(1つのみ)

- ① 小中連携・交流は必要だと思うが、やり方が分からないから
- ② 小中連携・交流は必要だと思うが、効果が検証できていないから
- ③ 小中連携・交流は必要だと思うが、負担が大きいと思うから
- ④ その他 ()

問 13 回答者数 なし

問 14 問 8～13 の回答内容を踏まえてお答えください。

川島町立小学校規模適正化計画では、平成 30～34 年度の 5 年間で、小中一貫教育に関する研究をおこなうこととしております。小中一貫教育研究に関する研究について、何かご意見がありましたら、ご記入ください。

→別紙参照

別紙

問 2 その他 回答内容

- 30年度以降に、一緒に生活を共にすることへの準備になるから
- 一つには選べない
- 児童にとって、他校の授業の様子や児童の様子を知る機会になると思うから。
- 児童にとっては、他校の児童を知る機会になると思うから
- 児童同士が互いを知り、環境に慣れると思う。

問 4 その他 回答内容

- はじめはあまり負担の掛からない行司から始めて、次第に特定など、段階をおうのがよいと思う。
- 先生方の負担を考えると、まずは行事等から始めて、徐々に機会を増やしていくとよいのでは？

問 6 その他 回答内容

- 伊草、中山は必要ないのではと思います。十分児童間で交流が学校できているので。

問 9 その他 回答内容

- 小中連携するなら、様々な面で検討する必要があると思う。

問 11 その他 回答内容

- 1単位時間の相違(授業交流する場合)

問 14 回答内容

- すでに小中一貫教育を行っている学校に視察し、川島町にも生かしていけるとよいと思います。
- まずは、育てたい児童生徒像を明確にするとともに、共通の目標設定をする等、ベースを確かなものにしてから実践的な交流を図ってほしい。
- 以前何かの研修である市町村での取り組みについて知る機会があったので参考にできると思いました。なかなか小中の先生達で交流する機会がないので、チャンスがあるといいと思います。
- 伊草小学校は、中学校2校に別れるので、両方に対応するのは困難です。2校を1校にしてから一貫教育を進めて欲しい。
- 一貫教育を行うことでよい面と悪い面が出るのではないかと考える。その為、実際にやってみてその結果子供達がどう感じたか慎重に聞く必要があると思います。
- 小学校から中学校へ入学する際に、様々なことがかわる(部活や、先輩、後輩、内申など)ことが最初は大変だと思うので、中学校がどんなところなのかをわかるよう、小学生のうちから中学校へ赴く機会を増やしたらよいと思います。
- 小中一貫教育のねらい、意図を明確にし、教職員のみならず、保護者、児童生徒に趣旨を分かりやすく示すことが、スムーズな研究の第一歩だと思います。大義がぶれていると枝葉の部分がどんどん目的と離れていくからです。
- 小中一貫教育の教育課程やカリキュラム、学校行事等の取り組み方などの学校生活の諸々が、具体的にどうなるか教員としても親としても理解しあえる機会や場があるといいです。

- 小中一貫教育は、中一ギャップの問題改善以外にも、教員間の交流、技術力の向上につながると
思います。たとえば、小学校で図工を受け持っていますが、専門的なことは、十分指導できるとはい
えないため、中学校の美術の先生から、専門的な知識を学び、道具の使い方など学校で統一でき
ると、中学校でも指導が楽になると思います。
- 小中一貫教育は今後川島町にとって必要な制度と考えます。他市の状況をみながら川島町の実
態に合わせたカリキュラム等を編成していただければと思います。
- 先日、西中学校吹奏楽部に来て頂きましたが、中学生の姿を小学生に見せることは、お互いに刺
激になってよいと思います。
- 中一ギャップに対応するために、6・3 制を柔軟に変更したり、中学校の行事に小学生が見学しに行
ったり、児童生徒が流動的になるような取り組みがあるとよいのではないのでしょうか。
- 中一ギャップを少しでも解消方向にもっていくために、という根底から考えると、6年生を対象とした
中学校体験を多く実施することが第一であると考えます。しかし、授業時数や移動手段等を考慮す
ると、とても難しいのが実情です。とはいえ、中一ギャップが問題視されている以上小中一貫教育
は必須と思います。授業や部活動を参観したり一緒に体験したり、放課後や休日の部活動練習を
(ある程度日を決めて)見学可能にしたり、避難訓練の引き取り訓練などの合同練習が可能であ
れば試みたり、等、幅広い場面で生徒や先生との関わりを設けていくと進学してからの不安かつ減少
し、見通しがつくのだと思います。
- 特になし。